



国民の森林・国有林

中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://www.rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

# 中部の森林



森林・林業体験学習実施中

## 「教職員を対象とした森林・林業体験学習研修会」

### を各地で開催

(P2に関連記事)

主な項目	○管内各地域において「教職員を対象とした森林・林業体験学習研修会」を開催 … P2
	○各地からのたより …………… P3
	○風景紀行 …………… P6



体験学習研修会をNHKが取材（東信・松本地域）

**管内各地域において  
「教職員を対象とした森林・  
林業体験学習研修会」を開催  
指導普及課**



「木曽森林環境保全ふれあいセンター」

八月四日に北信地域及び木曽地域、八月五日に上伊那地域、八月六日に東信・松本地域と、長野県内五つの地域の小中学校等の教職員の方々を対象とした森林・林業体験学習研修会を、長野県との共催により、各地域の国有林を主なフィールドとした四会場において開催しました。

この研修会は、森林環境教育の手法

等についての学習を通じ、森林・林業の役割や森林環境教育の重要性についての認識を高めるとともに、森林環境教育が学校教育の中に積極的に取り入れられるよう促すことを目的としたものです。

木曽地域では、温帯系と暖帯系の植物が混生して生育している植物の観察や、国宝、重要文化財等歴史的建造物の屋根葺きの材料として使われる檜皮について、北信及び東信・松本地域では、戸隠高原や美ヶ原高原において、高山に生育する動植物の観察を、また上伊那地域では、直角二等辺三角形形を利用しての樹高測定や、木の炭素量調査等、各会場ともフィールドの特色を生かし、思考を凝らした学習を行いました。

そして、各会場において、のこぎりを使った間伐等の伐採作業を体験し、先生方は、大粒の汗を流しながら、作業の大変さと同時に、森を守り育てることの大切さを改めて実感している様子でした。

近年、小中学校の多くが総合学習等の授業を利用し、地球温暖化や自然破壊等の環境問題や、森林、自然の働きや大切さについての学習を行っており、参加者の中には環境教育や地域・学校で組織されている緑の少年団担当の先生方もおられ、多くの方が「森林体験学習の企画にあたり参考・ヒントに」、「森林環境教育の進め方や準備の仕方を学びたい」、「伐採体験の手法を学び、学校で実践してみたい」等、しっかりとした目的意識



植物観察の様子（木曽地域）

をもって研修に臨んでいました。

また、先生方は、管内の森林管理署等が取り組んでいる出前授業（森林教室）に大変興味をもたれて「積極的に授業に取り入れてみたい」、「出前授業をもっとPRしていただき、児童・生徒に山のプロである職員の皆さんの、生の声で森林の話をしてほしい」等の声も聞かれました。

**「連携・協力に関する協定」  
の調印式**



「中信署」七月二十七日、信州大学山岳科学総合研究所と中信森林管理署による「連携・協力に関する協定」の調印式を

当署で行いました。

この協定は、北アルプスを中心とする国有林で両機関の管理区域、施設を相互活用することで森林及び山岳分野に係る研究教育、技術開発等の相互協力が可能な事項について連携・協力を効果的に図り学術の振興及び環境保全の発揮に寄与するとともに地域に貢献することを目的としています。

実施事項としては、技術開発、試験研究等に係る指導及び助言を山岳科学総合研究所が当署職員に実施したり、当署職員と信州大学生との交流により人材育成の推進及び相互支援を図ることを考えています。

今後、北アルプスの山岳地域の保全を考えるためにも学術的な研究の積み重ねが必要であり、協定を締結したことにより多くの成果が期待されます。



調印式の様子

## 各地からのたより

### 「レクリエーションの森」で オフショールサポーターが遊歩道整備

「木曾署」梅雨の晴れ間が覗いた七月十一日、中部森林管理局管内で初めて「レクリエーションの森」オフショールサポーター協定を締結した「アサヒビル株式会社」と「田の原天然公園の環境を守る会」による遊歩道整備作業が「レクリエーションの森」となっている木曾御岳自然休養林内の田の原天然公園で行われました。

田の原天然公園の遊歩道は湿原植物の踏み荒らしを避けるため、延長約三キロメートルの木道を設置していますが、今回の作業は、この木道の約五百メートルの間で行われ、揃いの青いジャンパーを身にまとったアサヒビル株式会社甲信統括支社及びグループ会社の社員二十九名と、田の原天然公園の環境を守る会、地元王滝村、木曾森林管理署のメンバーが参加し、田の原天然公園内の老朽化した木道の張り替えや、木道に覆い被さった笹の刈り払いを行いました。

アサヒビル株式会社の社員は、普段の仕事内容からは、かけ離れた作業で最初は戸惑いも感じられましたが、田の原天然公園の環境を守る会や王滝村、署のメンバーによる指導のもと、金槌やバ

ル、鎌等を使い作業に取りかかりました。

最初は、ぎこちない手つきでしたが、作業が進むにつれ段取りも良くなり道具の使い方にも慣れ、用意された資材も無くなるほど順調に進み、予定された時間よりも早く作業が終了しました。

社員からは「思ったよりも楽しい作業だった。次回も是非参加したい」、「こういった活動を続けることにより、休養林の環境保全を支援するサポーターが増えるきっかけになってくれれば」等の声が出され、充実した作業となったようです。

今回の遊歩道整備は協定締結後の初めての作業であり、どこまで出来るのか不安もありましたが、予想以上の成果があったことから、今後もレク森サポーターの保全活動に期待が持てる一日となりました。



木道の張り替え作業

### 地元中学生が職場体験学習 体験に汗を流し自然を体験

「北信署」七月二十八～二十九日の両日、飯山市立第三中学校二年生四名が職場体験学習のために当署を訪れました。

これは、中学校教育活動の一環で、各職場を訪問し、その仕事を体験する中で将来の進路選択の一助とするために行われているものです。

体験初日は、署長等から日本の森林・林業について総合的な説明及び森林管理署の仕事について説明を受けた後、飯縄山国有林のカラマツ素材生産事業箇所等を視察しました。

現地では、伐倒された木がプロセッサにより丸太にされ、フォワーダにより土場まで搬出されるのを目の当たりにするとともに、実際にノコギリを使ってスギを間伐する体験にも汗を流しました。

二日目は、貴重な自然、森林とふれあうため、ブナやシラカバの天然林、高層湿原が広がるカヤノ平自然休養林などを三時間程かけて散策し、動植物の名前、森林の生態・機能について説明を受けながら森の空気、木の香り等を肌で感じ自然を体験しました。

後日、生徒、学校からお礼の手紙が届き、生徒からは、「普段見られない森林、林業機械を見られてよい体験でした。森林を育て自然を保護することの大切さが分かりました」との感想が添えられています。



林業機械に見入る生徒達

ました。

森林・林業について教わるのが少ない今日、少しでも森林・林業の知識を深めていただければ幸いです。また、この体験が生徒達の今後の成長の糧となることを願うところです。

### 瀬戸市制施行八〇周年記念事業

～サバイバル！

里山を歩く・作る・食す

「名古屋事務所」七月二十六日、瀬戸万博記念公園「愛・パーク」(瀬戸市海上の森付近)において、「愛・パーク」『学ぶ』～サバイバル！里山を歩く・作る・食す』をサブテーマとする「瀬戸市制施行八〇周年記念事業」が開催され、ウォークラリーを始めとする多くのイベントに対し、約二、二〇〇人の来場者で賑わいました。



カンナくずプールで遊ぶ子供達

名古屋事務所は協賛参加し、カンナくずプール、木工クラブト教室（丸太切り・モックン）と森林教室、森の紙芝居を担当しました。

当日は、雨が心配されましたが何とか天候も持ち、当事務所が出展したコーナーには、小学生や家族連れを中心に多くの人が訪れ、木の枝を利用したモックン作りや、切った丸太を利用した鉛筆立てや壁飾り、コースター作りを楽しんでいました。

また、森の働きを説明する森林教室や森の紙芝居では、子供達のみならず大人も真剣に耳を傾けていました。

また、(社)名古屋林業土木協会の協力による「カンナくずプール」は、芝生広場の中央に設置され、子供達が大喜びで木の感触を一日中楽しんでいました。

今後とも、こうした地域のイベントに出展参加し、地球温暖化対策に貢献する森林の働き等、森林の大切さをPRして参りたいと考えています。

### 新上松土場が完成

〔木曾署〕木曾森林管理署新上松土場の竣工式が七月三十日、上松町土地開発公社との共催で六十名の関係者が集まり執り行われました。

上松駅西側にある現在の上松土場は、昨年十二月、その一部を工業団地分譲用地として、上松町土地開発公社に売り払ったことから、土地開発公社が代替土場を機能補償で建設したものです。新上松土場は、上松町萩原地内の木曾川河川敷に、用地面積約二・七二畝、貯材面積約一・二六畝で、貯材可能量約四、九〇〇立方メートルを確保し、管理棟、重機車庫、卸盤台二基、場内照明五基などを設置しています。



看板を掛ける川瀬署長と田口室長



新しくなった上松土場

竣工式は、久々の晴れ間の中、神事、来賓の祝辞などを受けたあと、木曾森林管理署長らによる管理棟への看板掛けを行い終了しました。

近年、土場の竣工式が珍しいこともあり、報道関係者も多く、式の成り行きと、新上松土場での事業内容などを取材していました。

新上松土場での事業は、八月以降上松土場から木材等を移動させスタートしますが、今後も素材販売における木曾谷の基幹的土場の役割を果たすよう取り組んでいくこととしています。

## 人のうごき

### 中部森林管理局人事

六月十六日付

▽南信森林管理署諏訪南森林事務所（南信署伊那里森林事務所） 古賀 祥陽

六月三十日付

▽東北森林管理局岩手南部森林管理署駐在解除（中信署治山課治山第二係長） 山岡 直樹

### 林野庁人事（抄）

七月一日付

▽中部森林管理局出向（飛騨森林管理署業務第二課付へ）（中部森林管理局企画調整室監査官）（名古屋事務所副所長） 中島 仁司

### 中部森林管理局人事

七月三十一日付

▽退職（局計画部付） 村松 剛志

### 林野庁人事（抄）

八月一日付

▽林野庁出向（企画調整室監査官（名古屋事務所副所長へ））（局森林整備部森林整備課課長補佐） 松井 栄

中部森林管理局人事

八月一日付

▽計画部森林技術センター副所長(岐阜  
署総務課長) 水間 慶一

▽森林整備部森林整備課課長補佐(局計  
画部森林技術センター副所長) 岩下 良治

▽岐阜森林管理署総務課長(局森林整備  
部治山課技術指導官(治山担当名古屋  
事務所)) 土田愉貴宏

▽企画調整室情報管理係長(局計画部計  
画課付) 彦瀬 卓也

▽企画調整室連絡調整官(連絡調整担当  
名古屋事務所) 計画部指導普及課(名  
古屋事務所) 併任(局計画部森林技術  
センター森林技術専門官) 熊澤 智史

▽計画部計画課測定審査指導係長(局計  
画部計画課付(名古屋事務所)) 大森 裕司

▽計画部指導普及課付(名古屋事務所)  
(局企画調整室連絡調整官(連絡調整  
担当名古屋事務所) 局計画部指導普及  
課併任) 安藤 達也

▽計画部森林技術センター森林技術専門  
官(東濃署業務第二課販売係長) 早川 幸治

▽森林整備部治山課技術指導官(治山担  
当名古屋事務所)(局森林整備部治山  
課国有林治山係長) 奥村 豊

▽森林整備部治山課国有林治山係長(北  
信署治山課技術専門官) 小沢 啓一

▽北信森林管理署治山課技術専門官(北  
信署治山課治山第一係長) 中村 悟

▽北信森林管理署治山課治山第一係長  
(北信署治山課治山第二係長) 澤口 章一

▽南信森林管理署黒河内森林事務所森林  
官併任解除(南信署伊那里森林官) 内藤 貴幸

▽南信森林管理署黒河内森林事務所森林  
官(南信署業務第一課付) 大前 辰男

▽東濃森林管理署業務第二課森林育成係  
長(飛騨署中洞森林官) 服部 忠博

▽東濃森林管理署業務第二課販売係長  
(東濃署東股森林官) 原田 直樹

▽東濃森林管理署東股森林事務所森林官  
(東濃署業務第二課森林育成係長) 井森 直樹

▽南信森林管理署伊那里森林事務所(南  
信署黒河内森林事務所) 田中 健

シリーズ  
現場最前線

労働災害のない健康で  
明るい職場づくり

南信森林管理署 豊丘森林事務所班

「南信署」当森林事務所の国有林は、長野県南部の天竜川流域にある飯田市の陣ヶ沢国有林・元岳国有林、下伊那郡豊丘村の大乗坊山国有林、下伊那郡喬木村の氏乗山国有林・沢山国有林と三市村に五つ国有林が点在している少々複雑に位置する現場となっています。また、森林事務所が所在する豊丘村の山林は、松茸の産地としても有名な場所となっています。

現場班は、主に林道維持修繕業務、育林業務、森林保全管理業務を行っており、また、近年、下伊那地域におけるニホンジカ等の野生獣による森林被害が深刻化していることから、昨年度より県地方事務所の区域を単位として近隣森林事務所と連携し有害獣ワナ捕獲チームを結成し、関係市町村や地元猟友会の協力を得る中、有害獣のワナ捕獲作業、被害予防作業も併せて実施しているところで

す。現場作業に当たっては、毎朝、森林事務所において森林官とその日の天候や作業内容に応じた安全の確認や作業段取り



止水エース補修維持作業

行事・会議等の予定

◎木曾川・森づくりin赤沢  
9月12日 木曾署管内

◎名古屋シティ・フォレスト事業  
9月18日 木曾署管内

◎金曜会(マスコミの長) 国有林視察  
9月29日 南信署管内

ふう けい き こう  
**風景紀行**  
**自然湖**  
 52  
 木曾森林管理署  
 (各署の景勝地等を紹介)

### 自然湖

【木曾署】木曾郡王滝村には多くの滝や溪谷、火山など風光明媚な場所があり、



忽然と現れる紺碧の自然湖

ここは、王滝国有林二三二一六林班、御岳国有林二三二〇林班外にかかる場所です。

これが今回紹介する「自然湖」です。

向かい約九キロメートル、忽然と紺碧の湖が左手に現れます。

現在、王滝村中心部から西へ、王滝併用林道を滝越集落に

深く切れ込んだ王滝川の溪谷を埋め尽くしたとされています。

木場、村道、林道など多くの施設を流し、人々をも飲み込み、

流下し、広大な森林、温泉や貯水池、村道、林道など多くの施設を流し、人々をも飲み込み、

日以前の降雨などの条件が関連して大崩れが発生し、三、四〇〇万立方メートルの土砂が激しい勢いで

山伝上川上部で地質や地下水、当日以前の降雨などの条件が関連して大崩れが発生し、三、四〇〇万立方メートルの土砂が激しい勢いで

「まさか王滝に！」によれば地震により御嶽

野県西部地震(M11.6・8)による御岳大崩壊の土砂により王滝川が堰き止められて出来たものです。

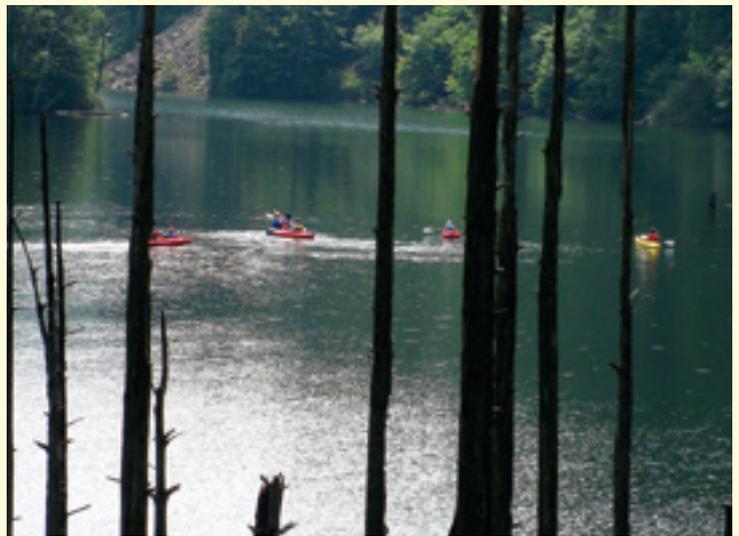
一九八四年(昭和五十九年)九月十四日の王滝村を震源とする長野県西部地震(M11.6・8)による御岳大崩壊の土砂により王滝川が堰き止められて出来たものです。

近代ではスキー場や保養地としても利用されてきました。

そんな王滝村にもう一つの名所柳ヶ瀬の「自然湖」が誕生しました。

一九八四年(昭和五十九年)九月十四日の王滝村を震源とする長野県西部地震(M11.6・8)による御岳大崩壊の土砂により王滝川が堰き止められて出来たものです。

近代ではスキー場や保養地としても利用されてきました。



カヌーを楽しむ人たち

湖の深いところでは約三〇メートルであるといわれています。

谷筋に沿った東西に約一、二〇〇メートル、南北二〇〜一八〇メートルほどの大きさで変化にとんだ入り江があり、湖面には林の立木がそのまま水没して枯れ上がったところもあります。

両岸には、樹齢三〇〇年前後の木曾五木を主とする天然林や七十八年生のヒノキ人工林などがみられ一帯は風景林に指定されています。

時折、村道を通過する車の音以外、小鳥のさえずる声と風の音ぐらいしかな静かな湖面には、緑深い森林が映り、水

中には大きなコイが表面近くまで様子を見に上がってきます。

近年、ここを癒しの場として活用するためカヌーを使って自然に親しみ楽しむ活動が行われるようになり、休日や夏の期間には多くの人が訪れるようになりました。

上流には、滝越の「水交園」もありバーベキュー等も楽しめます。

#### ◆アクセス

- ・公共交通機関を利用した場合  
JR 中央西線木曾福島駅下車  
タクシー利用で六〇分
- ・自動車を利用した場合  
中央自動車道中津川ICより  
塩尻方面へ一〇分
- 中央自動車道伊那ICより  
権兵衛R一九号経由一〇〇分



湖面に現れたコイ